

14<sup>41</sup>(イエス)

又

26<sup>41</sup>(イエス)

又

再度

再度、彼等を離れて、往き、

第三次に、來りて、

再度、同じ言を言ひて、

第三次に、祈れ

りて、彼等に

夫より、彼弟子等の許に來りて、

彼等に言ふ。

言ふ。

彼等に言ふ。

残る間、汝等睡れ。汝

残る間、汝等睡れ。汝

等休め。それ足る。

等休め。見よ！時刻近づきた

時刻來れり！

見よ！時刻近づきた

同見よ！人の子は罪人

人の子は罪人等の手に

等の手にへと渡さる！

へと渡さる！

汝等起きよ。いざ我

汝等起きよ。いざ我

等をして進ましめよ。見よ！我を渡し居る彼近づきたり！

等をして進ましめよ。見よ！我を渡し居る彼近づきたり！

耶蘇の捕縛

(マルコ一四三—五二)

(マタイ二六四—七五)

(ルカ二二の四七—五三)

(ヨハネ二—一八)

コルマ  
イタマ  
カル

18。さて「イエス」を渡し居る所のユダも亦その場處を知りたり。これイエス屢彼の弟子等と共に、其處に集りしが故なり。

耶蘇の捕縛(マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネ)







マ  
マ  
ル  
タ

18<sup>4</sup> 故に イス 彼に臨める凡ての事を知り、  
出往きて、 彼等に言ふ。  
誰を 汝等 求め居るか。  
彼等 彼に答へぬ。  
ナザレ 人 イスを。  
(イス) 彼等に言ふ。  
我なり。  
さて [イス] を渡し居るユダも 亦 彼等と  
共に、 立居たり。 故に (イス) 彼等に「我  
なり」と言ひし時、 彼等 後方に退きて、 地  
に倒れぬ。 故に (イス) 再度 質問せり。

コ  
イ  
ル

誰を 汝等 求め居るか。  
ナザレ 人 イスを。  
イス 答へぬ。  
我 汝等に「我なり」と言へり。  
故に 汝等 もし 我を求め居らば、  
汝等 此等の者を 退かしめよ。  
んが爲なり。  
汝の 我に與へたる 彼等をば、  
我 彼等の中より一人だも 失はざりき。



14 <sub>46</sub> かくて (ユダ)	26 <sub>49</sub> かくて (ユダ)	22 <sub>47B</sub> かくて
來りて、直に「イエ	直に「イエ	(ユダ) 彼に
ス」に近寄り、「ラフ	り、「大慶! ラフ	接吻せんと
べー!」と言ひて、	べー!」言ひて、	で、イエに
切に 彼に接吻せ	切に 彼に接吻せ	近づけり。
マ	26 <sub>50</sub> されど イエ	22 <sub>48</sub> されど イエ
ル	言へり。	言へり。
友よ!	ユダ!	接吻にて、
汝の來れる目	汝接吻にて、	人の

的(を果せ)

子を渡し居るか。

14<sub>46</sub> されど 彼等「イエ」  
に、手を掛けて、彼を  
取押へぬ。

其時、彼等近寄り、  
イエに、手を掛けて、  
彼を取押へぬ。

カ ル

14 <sub>47</sub> さて 傍	26 <sub>51</sub> かくて 見	18 <sub>10</sub> 故に 劍を持
コ	22 <sub>49</sub> されど「イエ」の周圍に居りし 彼等 事の	ネ
ル	成行を見て、言へり。	
マ	主よ!	
イ	我等も 劍にて、撃たんには?	



アウグスト帝  
の時の一七千  
ヨハネ六千七  
一歩兵六千七  
百二十六騎兵  
計六千八百二  
十人なり。

マ コ

その場處に返せ。  
彼は劍を取れる  
彼等一同劍にて  
亡ぶべければなり。  
或は汝考へ居るか  
我が父を招き寄せ能はず。  
彼も亦唯今十二レギヨ以上の使者を  
我に侍らしめじ。  
さらば「それ正に斯く成らざる可らず」  
どの書如何で全うせらるべき。

耶蘇の捕縛(マルコ、マタイ、ルカ)

カ ル

カ

せよ。  
父の我に與へたる所  
のカップ!  
なごて我此を飲ま  
ざるべき。

「小耳」と云ふも小きに非ず。口目手足等に「御」や「小」を附する例あるなり。  
メレク(王)

マ

26 其時 イエス 彼に  
汝の劍を其  
に立てる彼等  
の或る一人  
の劍を抜  
き、祭司長  
の奴隷を撃  
ちて、彼の  
小耳を落せ  
り。  
よ! イエスに  
伴へる彼等  
の一人、手  
を伸べ、彼  
の劍を抜き  
て、祭司長  
の奴隷を撃  
ちて、彼の  
耳を落せり。  
彼の右の  
小耳を落せ  
り。

耶蘇の捕縛(マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネ)

ル

18 故に イエス ベツロに  
汝劍を鞘にへと投  
せり。  
彼等の中  
の或る一  
人、祭司  
長の奴隷  
を撃ちて、  
彼の右の  
小耳を落  
せり。  
「メレク」なりき。  
その奴隷の名は  
ベツロ、此を抜  
てシメオン  
の右の小耳を斬  
る。祭司長の奴  
隷を撃ちて、彼



十位一百一十  
六千人  
二十人  
二百  
六百

コ ル マ

イ タ マ

22<sup>51</sup>されど イス 答へて、言へり。  
汝等 是迄にて 措け。  
而して (イス) その小耳に觸りて、彼を癒せり。

14<sup>48</sup>かくて

イス 答へ

て、彼等に

言へり。

汝等 我を捕へ

んとて、強盜に

向ふが如く、

26<sup>55</sup>かの時刻、

イス 群衆

に言へり。

ひて、言へり。

汝等 我を捕へ

んとて、強盜に

向ふが如く、

22<sup>52</sup>されど

イス

彼の傍に立

現れし祭司長・宮司・長老等に向

汝等 強盜に

向ふが如く、

14<sup>49</sup>日日、我 宮に  
於て、教へつつ  
汝等の許に在り  
き。  
而も 汝等 我  
を取押へざりき。  
されど

劍と棒とを携へ  
て、出で來りし  
や。  
日日、我 宮に  
於て、教へつつ  
坐し居たり。  
而も 汝等 我  
を取押へざりき。

劍と棒とを携  
へて、出で來  
りしや。  
22<sup>58</sup>日日、我 宮  
に於て、汝等  
と共に在りし  
時、  
汝等 我に  
手を掛けざり  
き。  
されど 此は  
汝等の時刻な



ハナンは紀元  
六七年頃スリ  
ヤの總督クリ  
リニオに依り  
て任命せられ  
たるユダヤ人  
の祭司長ナリ  
しが、其後紀  
元十五年、

マルコ  
五三  
六五

マタイ  
二六  
六八

ルカ  
五五  
六六  
七五  
八五

ヨハネ  
一四  
一八  
二四  
三〇  
三六  
四一

二七 議會の審問

議會の審問(マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネ)

九六七

18 故に 一隊の兵士・千夫長・ユダヤ人の警  
吏等 イスを捕へ、彼を縛りて、最初に、  
ハナンの許に曳往けり。そは 彼は かの  
年の祭司長なりし所のカヤバの舅なりけれ  
ばなり。14 さて カヤバは ユダヤ人等に、  
「人民の爲に、一人の人の 死ぬるは 利

耶蘇の捕縛(マルコ、マタイ、ルカ)

九六六

これ 書の 全  
うせられんが 爲  
なり。

は、  
預言者等の書の  
全うせられんが  
爲なり。

り。  
而も 暗黒の  
權威なり。

14 かくて 一同 「イス」を遺  
して、逃去れり。

其時、弟子等一同 「イス」を  
遺して、逃去れり。

51 時に、素肌すだに、印度布いんどうふを纏まとひたる或あるる青年せいねんも、亦また 共ともに  
「イス」に 隨行ずいかうし居ゐたりしが、彼等かれら 彼かれをも取押とりおしへければ、  
52 彼かれ 印度布いんどうふを振棄ふるすて、裸體はだかにて、逃去にげれり。







等ら イスを  
祭司長の許に  
曳往きしかば、  
祭司長長老文  
學士等一同  
集り來る。

イスを取押へて  
文學士長老等の  
集りし所の祭司  
長カヤバの許に  
曳往けり。

等ら 「イス」を  
捕へ、曳往  
きて、祭司  
長の家にへ  
と曳入れぬ。

ハナン  
「イス」を縛  
りて、祭司  
司长カヤ  
バの許に  
派遣せり。

14<sup>54</sup> かく  
てベ  
ツロ  
祭司長  
の中庭

26<sup>58</sup> さて  
ベツロ  
祭司長の  
中庭まで  
遠方より

22<sup>54B</sup> さて  
ベツロ  
遙に隨行  
し居たり  
しが、彼

18<sup>15</sup> さて シメオン  
ベツ  
ロと他の弟子と  
隨行し居たりしが、  
かの弟子は祭司長に識  
らるる者なりしかば、  
イス

の内部  
までも、  
遠方よ  
り「イス」  
に隨  
行せり。  
而して  
警吏等  
と共に  
坐して、  
火照に  
煖り居

「イス」に  
隨行し居  
り、事の  
結局を見  
んとて、  
内部に入  
り、而し  
て警吏  
等と共に  
坐し居た  
り。

等ら 中庭  
の中央に  
て、盛に  
火を焼き、  
共に坐せ  
しかば、  
ベツロも  
亦彼等  
の間に、  
坐し居た  
り。

スと共に、祭司長の中庭  
にへと入れり。されど  
ベツロ戸(口)にて、外部  
に立ち居たり。故に祭司  
司长に識らるる他の弟子  
出で來り、門番の女に言  
ひて、ベツロをも、導き  
入れぬ。折しも、寒かり  
しかば、奴隸警吏等炭  
火を熾して、煖り居りけ  
れば、ベツロも亦彼  
等と共に、立ちて、煖り



たり。

14<sup>55</sup>さて 祭司長等も全議會も、**イエス**を死に處せんとて、**彼**に逆ひて、證據を求め居たれども、**彼等**見出さざりき。56そは多數の者**彼**に逆ひて、**偽證**し居たれども、その證據一致せざりければなり。57又或る者等立上りて、**彼**に逆ひ、

居たり。

21<sup>59</sup>さて 祭司長等も全議會も、如何にしてか、**イエス**を死に處せんものごと、**彼**に逆ひて、**偽證**を求め居り、**而も**多數の**偽證人**近寄りたれども、(證據を)見出さざりき。58されど後程二人の者近寄り

偽證して、言へるは、

て、言へり。

58我等**彼**の言へるを聞けり。**我**手にて造れるこの堂を毀へたん。**而して**三日の内に、手にて造らざる他のを建てん。

此の言へり。**我**神の堂を毀ち、三日の内に、建て能ふ。

59**而も****彼等**の證據、**斯**の如く一致せざりき。60かくて祭司長中央にへと立上り、**イエス**に質問して、言へるは、

26<sup>62</sup>かくて祭司長立上りて、「**イエス**」に言へり。



汝は何をも答へざる

此等の者の汝に對する證據如何

汝は何をも答へざる

此等の者の汝に對する證據如何

カ ル

14<sup>61</sup>されど「イス」

黙して、何をも答へ居らざりしかば、祭司長再度、彼に問ひ始めて、彼に言ふ。

26<sup>63</sup>されど

「イス」黙し居りしかば、祭司長又彼に言へり。

22<sup>66</sup>かくて

夜明と成れるや、民の長老職なる祭司長文學士等集り、「イス」を彼等の議會にへと曳往きて、言へるは、

汝は祝すべき者の子メシ

ヤなるか。

14<sup>62</sup>「イス」坐言へり。

我なり。

汝は神の子メシ

もし汝はメシヤならば、我等

に言ふやう、活ける神かけて、我の汝に誓はしむ。

26<sup>64</sup>「イス」彼に言

ふ。汝言へり。

されど「イス」彼等に言へり。

たとひ我汝等に言ふども、汝等決して信するまじ。



議會の審問(マルコ、マタイ、ルカ)

……  
……  
……

汝等 權能の  
右に坐し、且  
天の雲に乗り  
て、來る人の子  
を見ん。  
14 63 さて、祭司長  
彼の 下着を裂き

更に 我 汝  
等に言ふ。

汝等 唯今よ  
りに、權能の右  
に坐し、且  
天の雲に乗り  
て、來る人の子  
を見ん。  
26 65 其時、祭司長  
彼の 上着を裂き

九七六

22 68 かつたどひ 我  
問ふとも、  
亦汝等 決して  
答ふるまじ。  
69 されど、今より  
人の子は、  
神の權能の右に坐  
し居らん。  
70 さて、彼等一同  
言へり。

て言ふ。  
……  
……

何ぞ 尙 我等

議會の審問(マルコ、マタイ、ルカ)

て、言へるは、  
彼 褻瀆せ

何ぞ 尙 我等

汝！ 然らば 汝  
は 神の子なるか。  
「イス」 彼等に向ひて、  
言へり。

汝等 言ひ居るな  
り。  
それ 我なり。  
71 されど、彼等言

何ぞ 尙 我等

九七七



等に、證據の必要あらんや。  
14 汝等 褻瀆を聞きしや。

に 證據の必要あらんや。  
見よ！ 汝等今 褻瀆を聞きけり。

九七八  
に 證據の必要あらんや。  
そは我等自ら 彼の口より 聞きぬればなり。

如何に それ 見ゆるか。  
14 かくて 或る 彼等一同 彼を 死に當るべき者と判決せり。

汝等に 死に當るは、 26 其時 彼等 [イエス] を

26 何と それ 汝等考ル 彼等は 答へて、言へり。 死に當る者なり。 22 かくて [イエス] を

者等は [イエス] に 唾し、彼の面を 包み廻し、彼に 拳固して、彼に 言ひ始めぬ。 汝 預言せよ。

スの面にへと唾し、 彼の拳固せり。 又他の者等は 彼を毆りて、言へるは、 我等に預言せよ。 汝 メシヤ！ 汝を打ちし彼は 誰なるか。

警護せる男等 打擲して、彼を嘲弄し、又彼を包み廻し、質問し始め、言へるは、 汝 預言せよ。 汝を打ちし彼は 誰なるか。

警吏等も 亦 毆りつつ、 [イエス]

……

22 彼等 尙 褻瀆して、 他の多数の事を、 [イエス]



スを取れり。

に向ひて、言ひ居たり。

二八 ベツロの否認

(マルコ一四の六六―七二)

(マタイ二六の六九―七五)

(ルカ二二の五六―六二)

(ヨハネ一八の二七―三五)

14<sup>66</sup> かくてベツロ階下に中庭に居れるに、祭司長の婢等の一人來り、  
67<sup>67</sup> 煖り居るベツロを見、眺め詰めて、

26<sup>69</sup> さてベツロ外部に中庭に坐し居たるに、一人の婢、彼に近寄りて、言へ

22<sup>66</sup> さて或る婢、火照に向ひて、煖り居る[ベツロ]を見、熟視して、彼

18<sup>17</sup> 故に門番の婢のベツロに

彼に言ふ。

るは、

言ふ。

汝も亦ナザレ人イ  
スと共に居たり。

汝も亦イヌガ  
リラ人と共に居たり。

此者も亦彼と共に居たり。

汝も亦此人の弟子等の中の者に非ずや。

68<sup>68</sup> されどベツロ

26<sup>70</sup> されど「ベツロ」

22<sup>67</sup> されど「ベツロ」

その彼

言へるは、

「ベツロ」一同の前に

言へるは、

言ふ。

我(彼)を知  
らす。

………

我(彼)を知  
らす。

我(彼)を知  
らす。

ベツロの否認(マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネ)



尚又 汝  
何を言ふか  
を解せず

汝 何を言ふ  
かを言 我 知  
らず

女よ！

かくて 「ペツロ」

26 さて (ペツ

22 少頃の

18 さて シ

外部に 庭口に

と 出往きしに、

後 別の

メオン

へと 出往きしに、

他の女 彼を

者も 亦

ツロ 立ち

14 婢 彼を見て、

見て、 又 其

「ペツロ」を

て、 煖り居

再度 傍に立て

處なる 彼等に

見て、 言

りしかば、

再度 彼等に言ひ始

言ふ

へり

(人々) 彼に

此は 彼の  
等の中の  
者なり

此は イス  
ナザレ人と  
共に居たり

汝も 亦  
彼等の中  
の者なり

汝も 亦  
彼の弟子等  
の中の者に  
非ずや

70 されど  
「ペツロ」

72 (ペツロ) 又  
誓ひて、 再度

されど ペツ  
ロ 言へり

その 彼 否み  
て、 言へり

再度 否

否めり

人よ！

……

み居たり

我 この人  
を知らず

我ならず

……

かくて 暫

73 さて

59 一刻ほど

26 祭司長の奴隷等

ペツロの否認(マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネ)

九八三







ベツロの否認(マルコ、マタイ、ルカ)  
次に鳴けり。

九八六  
鶏 忽ち鳴けり。

22<sup>61</sup> 爰に於て、主 振向き  
て、ベツロを眺め詰めぬ。

かくてベツロ

26<sup>75</sup> かくて

かくてベツロ

イスの如何に

鶏 鳴く前

主の如何に「鶏

「鶏 二度 鳴く

「鶏 二度 鳴く前

「鶏 二度 鳴く前に、今日

前に、汝 三度、

前に、汝 三度、

前に、汝 三度、我を否

我を否まんと 彼

我を否まんと

汝 三度、我を否

に言ひし言を思ひ

イスの言ひた

まん」と 彼に言ひ

出、而して 想

而して 外部に

而して 外部に

ひ巡らしては、泣

出往きて、痛ま

出往きて、痛まし

き居たり。

泣く泣けり。

泣けり。

二九のユダの死 (マタイ二七)

27 其時、「イス」を渡ししユダ、彼の 判決せられしを見て、

後悔し、銀三十を 祭司長長老等に返して、言へるは、

我 無辜の血を渡して、罪を犯せり。

されど 彼等 言へり。

それ 我等に 何か有らん。

汝 自ら見るべし。

爰に於て、(ユダ) 銀を 堂にへと投棄てて、退き、去

ユダの死(マタイ)

九八七



ユダの死(マタイ)

九八八

りて、縊れぬ。27<sup>6</sup>されど 祭司長等 銀を取りて 言へ

り。 其等は血の代價なるを以て、

賽銭函に投ずるは 可らず。

27<sup>7</sup>さて 彼等 協議し、旅人等の爲に、墳塋として、陶

工の畠を、其等にて買へり。因てかの畠は 今日に至

るまで、「血の畠」と呼ばれぬ。其時、預言者イルメヤを通

じて、言はれし言 全うせられぬ。

イスラエルの子等の 評價せし所の

その評價せられたる彼の代價なる

銀三十を 彼等一取れり。

10<sup>10</sup>而して 主の 我に命せし如く、

銀を取りて 言へ

陶工の畠の爲に、彼等 其等を與へぬ。

三〇 ピラトの審問

(マルコ一五)

(マタイ二七の二)

(ルカ二五)

(ヨハネ一八)

15<sup>1</sup>かくて 朝、

27<sup>1</sup>さて 夜明と成

23<sup>1</sup>かくて

18<sup>23</sup>故に

祭司長等 直

りて、祭司長民の

彼等 大

(八人) イ

に 長老文學

長老等一同 イス

衆諸共

スをカ

士等と共に、

を 死に處するや

立上りて、

ヤバの處

全議會 協議

う、彼に逆ひて、

「イス」を

より、

して、 イスを

協議し、彼を縛り

ピラトの

官 廳に

ピラトの審問(マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネ)

九八九

プラエトリウ  
ムはラチン語  
なり。



縛り、曳往き  
て、ピラトに  
渡せり。

ピラトの審問(マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネ)

九九〇

マ  
マ

ル

而も 彼等 汚れずして、  
過越祭の晩餐を  
食し得るやう、自ら  
官廳にへと入らざ  
りき。故にピラト  
外部に彼等の許  
に出で來りて、言ふ。  
汝等 此人に對して、  
何を告訴するか。  
18 彼等 答へて、  
彼に言へり。  
此者 惡を働き居らざりしならば、

曳往きて、總督ピ  
ラトに渡せり。

側に曳往  
けり。

へと曳往  
きしが、  
既に夜  
明なりき。

コ  
ル

イ  
タ

カ

我等 彼を 汝に渡さざりしならん。  
故に 彼を引取れ。汝等に言へり。  
且 汝等の律法に従ひて、  
彼を審判せよ。  
ユダヤ人等 彼に言へり。  
我等には 何人をも、  
死に處するの權  
無し。  
32 此れ 如何なる死態にて、  
彼を將に死な  
んとするかを諷して、  
言ひし所のイスの言  
の 全うせられんが爲なり。  
故に 33A  
再度、官廳にへと入れり。

ピラトの審問(マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネ)

九九一







マ  
マ  
ル  
ル  
ル

18<sup>35</sup>ピラト

答へぬ。

汝に言ひしや。

我<sup>われ</sup> 豈<sup>あに</sup> ユダヤ人<sup>じん</sup>ならんや。

汝<sup>なんぢ</sup>の國民<sup>こくみん</sup> 及び<sup>および</sup> 祭司長等<sup>さいしちやうら</sup> 汝<sup>なんぢ</sup>を 我<sup>われ</sup>に

渡<sup>わた</sup>せり。

汝<sup>なんぢ</sup> 何<sup>なに</sup>を爲<sup>な</sup>ししや。

36 イス<sup>イス</sup> 答<sup>こた</sup>へぬ。 此世<sup>このよ</sup>の中<sup>なか</sup>のものに非<sup>あ</sup>ざるな

わが王國<sup>おうこく</sup>は 此世<sup>このよ</sup>の中<sup>なか</sup>のものに非<sup>あ</sup>ざるな

り。 もし<sup>もし</sup> わが王國<sup>おうこく</sup>が 此世<sup>このよ</sup>の中<sup>なか</sup>のものなり

しならば、王<sup>おう</sup> 人<sup>じん</sup>等<sup>ら</sup>に渡<sup>わた</sup>されざるやう、

我<sup>われ</sup>の ユダヤ人<sup>よだやじん</sup>等<sup>ら</sup>に渡<sup>わた</sup>されざるやう、

コ  
イ  
カ

わが從者<sup>じゆうしや</sup>等<sup>ら</sup> 奮闘<sup>ふんとう</sup>し居<sup>ゐ</sup>たるならん。

されど わが王國<sup>おうこく</sup>は 今<sup>いま</sup> 此處<sup>このこ</sup>のものに

非<sup>あ</sup>ざるなり。 故<sup>ゆゑ</sup>に

37 彼<sup>かれ</sup>に言<sup>い</sup>へり。

而<sup>しか</sup>も 尙<sup>なほ</sup> 汝<sup>なんぢ</sup>は 王<sup>おう</sup>なるに非<sup>あ</sup>ずや。

イス<sup>イス</sup> 答<sup>こた</sup>へぬ。

汝<sup>なんぢ</sup> 言<sup>い</sup>ひ居<sup>ゐ</sup>るなり。

それ 我<sup>われ</sup>は 王<sup>おう</sup>なり。

我<sup>われ</sup>之<sup>これ</sup>が爲<sup>ため</sup>に、生<sup>う</sup>れたり。

我<sup>われ</sup>之<sup>これ</sup>が爲<sup>ため</sup>に、世<sup>よ</sup>にへと來<sup>きた</sup>れり。

凡<sup>みな</sup>これ 我<sup>われ</sup> 眞理<sup>しんり</sup>に證據<sup>しやうこ</sup>立たんが爲<sup>ため</sup>なり。

凡<sup>みな</sup>そ 眞理<sup>しんり</sup>より出<sup>い</sup>でし彼<sup>かれ</sup>は わが聲<sup>こゑ</sup>を聞<sup>き</sup>



マ  
ル  
コ  
イ  
タ  
カ  
ル

18<sup>38A</sup> ピラトは彼に言ふ。眞理とは何ぞや。...

15<sup>3</sup> 祭司長等 又多數

27<sup>12</sup> 「イス」尙 祭司長

ル

の事に就いて、「イス」を  
告訴し居たりしかば、  
4ピラト 再度、彼に  
質問して、言へるは、

長老等に依りて、告訴  
せられしかど、何を  
答へざりき。13<sup>30</sup> 其時、ピ  
ラト 彼に言ふ。

汝 何を答へざりき。

...

ヨ

るか。

見よ！ 彼等

如何に多數の事に就いて、汝を告訴し居るぞ！

... 彼等 如何に多數の事に就いて、汝を告訴し居るかを、汝 聞かざるか。

ハ

5<sup>3</sup> されど、イスは

而も (イスは) 總督の大に怪める程に、爲に、一言をも 彼に答へざりき。

ピラトの 怪める程に、最早 決して、何を答へざりき。

...

カ

ネ

23<sup>4</sup> されど、ピラト 祭司長、群衆等に向ひて、

18<sup>38B</sup> (ピラト) 又 此等の事を言ひて後、再度、ユダヤ人等の許

ピラトの審問(ルカ、ヨハネ)



言へり。此人に於て、何を

答むべき事を見出さず。

に出往きて、彼等に言ふ。我自ら彼に於て、何を答むべき事を見出さず。

見出さず。

23 されど 彼等益 猛りて

言へるは、

彼はガリラヤより始めて、

此處に到るまでも、

ユダヤ全國を巡りて、

つつ人民を煽動す。

三一

耶蘇

ヘロデに送らる

(ルカ二三の六一―二三)

23 6 さて ピラト 聞きて、此人のガリラヤ人なるかを質問し、而してヘロデの管下よりなるを識りければ、其頃、イエルサレムに居たるヘロデの許に、「イエスを送り還せり。さてヘロデ、イエスを見て、大に喜べり。そは「ヘロデ、イエスに就ける噂の故に、久く彼を見んと欲し、何か彼に依りて爲さるる證徴を見んと望み居たればなり。さて(ヘロデ)多數の言にて、彼に質問し居たりしが、「イエス」何事をも彼に答へざりき。されど祭司长、文學士等立上りて、烈く「イエスを告訴しければ、ヘロデ彼の兵士等と共に、「イエスを蔑にし、かつ嘲弄して、華麗なる衣を着せ、而して彼を、ピラトに送り還ししが、同日、ヘロデ及びピラトは、相互に

耶蘇(ヘロデに送らる(ルカ))







バルアバ(父の子、即ち貴)

マタイ、ヨハネ、ルカ、マルコ

ピラト 耶蘇を赦さんとする(マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネ) 一〇〇二

15<sup>6</sup>さて 祭

毎に、請願

する所の囚

徒一人を、

彼等に釋し

來れり。

27<sup>15</sup>さて 祭毎に、

總督は、

彼等が

欲する所の囚

一人を、

群衆に

釋すことを例と

せり。

18<sup>39</sup>さて 汝等に 慣

例あり。

我、過越祭に於て、

一人を、

汝等に釋

さんことなり。

15<sup>7</sup>さて 一揆騒動に於て、人

殺を爲しし程の一揆と共に、

捕縛せられたる「バルアバ」と

云はるる者ありき。而して

群衆 出頭し、「ピラト」の、彼

27<sup>16</sup>さて 其時、

彼等に「バルア

バ」と云はるる名

高き囚徒ありき。

17<sup>45</sup>故に 彼等の

等に爲し來りし如く、請求し  
始めければ、ピラト 彼等に  
答へて、言へるは、

集りたる時、ピ  
ラト 彼等に言

カ  
ネ

汝等 我を

して、汝等

に、ユダヤ

人等の王を

釋さしめん

と欲するか。

汝等 我をして

誰を 汝等に釋

さしめんと欲す

るか。

バルアバをか。

或は「メシヤ」と

云はるるイスを

か。

故に 汝等

我をして、ユ

ダヤ人等の王

を、汝等に釋

さしめんと希

ふや。

ピラト 耶蘇を赦さんとする(マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネ) 一〇〇三



ピラト 耶蘇を赦さんとする(マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネ)一〇〇四

15<sup>10</sup>そは 嫉妬の故に、  
祭司長等 [イス]を渡し  
たることを、彼 識り  
居たればなり。

27<sup>18</sup>そは 嫉妬の故に、  
彼等 [イス]を渡ししこ  
とを、彼 知りたれば  
なり。

マ 27<sup>19</sup>さて [ピラト] 法廷に坐せるに、  
彼(人)を 彼の許に派遣して、言へるは、  
汝 何を、かの義人に干渉すること勿  
れ。 我 今日、彼の故に、夢に因りて  
多數の事を苦みければなり。

ル ヨ  
カ ネ  
ハ

15<sup>11</sup>されど  
祭司長等は  
(ピラトの)  
寧ろ、バル  
アバを、彼  
等に釋すや  
うに、群  
衆を教唆せ

27<sup>20</sup>されど  
祭司長長老  
等、バルア  
バを請求し、  
イスを亡ぼ  
すやうにと  
群衆を説付  
けぬ。

23<sup>18</sup>されど 大  
衆諸共 叫び  
出して、言へ  
るは、  
汝 此者を  
除け。  
されど 我  
等に、バル  
アバを釋せ。

18<sup>40</sup>故に 彼等  
再度、叫び出  
して、言へる  
は、  
此者に非ず。  
されど 巴  
ルアバを、

ピラト 耶蘇を赦さんとする(マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネ)一〇〇五

23<sup>19</sup>

(バルアバは) 町に於て、起り

さて バルア



ピラト 耶蘇を赦さんぞす(マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネ)一〇〇六

マ  
イ  
タ  
マ  
し  
或る一揆ど、人殺どの故に監  
獄に投せられし程の者なりき。

バは 強盗な  
りき。

27<sup>21</sup>されど 總督 答へて、彼等に  
言へり。

23<sup>20</sup>されど  
ピラト イ

汝等 我をして、二人の誰を、  
汝等に釋さしめんと欲するか。

汝等 我をして、二人の誰を、  
汝等に釋さしめんと欲するか。

スを釋さん  
と欲して、  
再度、彼等  
を呼寄せぬ。

コ  
されど 彼等 言へり。  
バルアバを。

再度、彼等

15<sup>12</sup>されど 彼等に言ひ居たり。

27<sup>22</sup>ピラト 彼等に言ふ。

ル

然らば 汝等が「ユダ  
ヤ人等の王」と云へる所  
の彼を、我 如何に爲  
すべきか。

然らば 「メシヤ」と  
云はるるイスを  
我 如何に爲すべ  
きか。

カ

13  
再度、叫べり。 彼等

23<sup>21</sup>されど 彼等 呼返

彼の 磔殺にせ  
られんことを！

彼の 磔殺にせよ。

彼の 磔殺にせよ。

ピラト 耶蘇を赦さんぞす(マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネ)一〇〇七







ピラト 耶蘇を赦さんぞす(マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネ) 二〇二〇

コ ル 5 11

り、群衆の前、手を洗ひて、長言へるは、  
 我は此者の血は、無罪なり。  
 汝等自ら視よ！  
 27 かくて人民一同答へて、言へり。  
 彼の血は我等の上に、  
 又我等の兒等の上に

カ ル 6

示 ハ 三 ヨ

15 さてピラト  
 ト群衆を満  
 足せしめんと  
 希ひて、バル  
 アバを、彼等

27 夫なり、  
 ルアバを、  
 彼等に釋し  
 たれども、

23 かくてピラト  
 彼等の請求に應せん  
 と決し、  
 彼等の請求  
 求し居たる所の者に  
 一揆と人殺との

19 故  
 其時  
 ピラ

に釋し、而も  
 イスをば、磔  
 殺にせらるる  
 やう、鞭ちて、  
 渡せり。

イスをば、  
 磔殺にせら  
 るるやう、  
 鞭ちて、渡  
 せり。

故に、監獄にへど投  
 せられたる彼を釋し  
 たれども、  
 彼等の意に任して、  
 渡せり。

イ  
 取  
 りて、  
 鞭ちて

15 さて兵士等  
 官廳なる所の  
 中庭の内部に  
 「イス」を曳往き、  
 全隊を呼集めて、  
 紫の衣を、彼

27 其時、  
 イスを  
 往きて、  
 全隊を、  
 集め、  
 彼の  
 上着を  
 褫ぎ  
 て、  
 緋の陣羽織を、  
 彼に  
 纏ひ、  
 茨にて、  
 冠を編み、

19 かくて  
 兵士等  
 茨  
 にて、  
 冠を  
 編み、  
 「イス」  
 の頭に戴か  
 せ、  
 紫の上

ピラト 耶蘇を赦さんぞす(マルコ、マタイ、ヨハネ) 一〇二二







磔殺にせよ！ 磔殺にせよ！

ピラト 彼等に言ふ。

汝等 自ら 彼を引取れ。而して 汝等 磔殺にせよ。

そは 我 彼に於て、答むべき事を見出さざればなり。

19 ユダヤ人等 彼に答へぬ。

我等に 律法あり。

その律法に従へば、彼 死罪を免れず。

それ 彼は 己を、神の子とすればなり。

故に ピラト 此言を聞きし時、益 恐れ、再度、

官 廳にへと入りて、イスに言ふ。

汝は 何處よりなるか。

されど、イス 彼に 答を爲さざりき。故に ピラト

彼に言ふ。其の 答を爲さざりき。故に 彼に言ふ。

汝 我に語らざるか。汝 王知らざるか。

それ 我に 汝を放免するの 權威あり、

又 汝を磔殺にするの 權威あることを。

11 イス 彼に答へぬ。

上より、汝に與へられたるもの外

我に逆ひて、一だも 汝に 權威 無し。

この理由にて、我を 汝に渡しし彼の罪 更に大なり。

12 是より、ピラト 「イス」を釋さんと求め居たれども、ユ

ダヤ人等 叫びて、言へるは、

汝 もし 此者を釋さば、汝は、カエサルの友に非ず。

凡そ 己を 王と爲し居る彼は、カエサルに叛く。



19 故に **ピラト** 王此等の言を聞き、**イエス**を外部に曳出し、**石壘**と云はるる場所にて、**ヒブリ語**の**ガブベサー**なる審判席の上に坐せり。恰も**逾越祭**の支度日にて、第六刻頃なりしが、**彼ユダヤ人等**に言ふ。見よ！**汝等の王**！故に其等の者叫べり。取除け。取除け。彼を磔殺にせよ。**ピラト** 彼等に言ふ。汝等の王を我磔殺にすべきか。祭司長等答へぬ。我等に王あらず。故に**(ピラト)** 其時、磔殺にせらるるやう、**「イエス」**

彼等に渡せり。

三四 **ダゴルゴレスへの途上**

(マルコ一五)

(マタイ二七)

(ルカ二三)

15 かくて **彼等** **「イエス**を嘲弄せし後、**彼**より、**紫の衣**を褫ぎて、**彼の上着**を、**彼**に着せ、**彼を磔殺**するやう、**彼を曳出し**、**彼を曳往**きしが、**彼** 27 かくて **彼等** **「イエス**を嘲弄せし後、**彼**より、**陣羽織**を褫ぎ、**彼の上着**を、**彼**に着せ、**磔殺**にせんとして、**彼**を曳往きしが、**彼** 23 かくて **彼等** **「イエス」**を曳往き、**田舎**より來れる或るクレネ人

ダゴルゴレスへの途上(マルコ、マタイ、ルカ)



15 又 アレキサンデ  
ル 及び ルーフの  
父にて、田舎より來  
り、通り掛れる或  
クレネ人シメオンを  
強ひて、「イエス」の十字  
架を擔がしめぬ。

等 出で來れる時  
「シメオン」と名づくる  
クレネの人を見出し、  
此者を強ひて、「イエス」  
の十字架を擔がしめ  
ぬ。

シメオンを  
捕へ、十字  
架を、彼に  
載せて、イ  
スの背後よ  
り、運ばし  
めぬ。

23 さて 人民 及び (胸を) 打ちて、「イエス」を哀悼せる女等  
の夥しき大衆 彼に隨行し居たりしが、<sup>28</sup> イエス 振返り、  
彼等に向ひて、言へり。  
「イエルサレムの娘等よ！」

我が爲に、汝等泣くこと勿れ。  
併し汝等己が爲に、又汝等の兒等の爲に泣け。  
29 それ見よ！ 日來ればなり。  
その日に、彼等言はん。  
「ああ幸福なるかな 石女！  
産まざりし胎！ 哺さざりし胸！」  
30 其時 彼等言ひ始めん。  
山に「汝等我等の上に落ちよ。」  
岡に「汝等我等を覆へ。」  
31 それ 生木に於てすら、彼等此等の事を爲す。  
32 それ 枯木に於ては、何事の起るべきか。  
彼等又「イエス」と共に、處刑せらるべき二人の別の犯

ゲルゴレスへの途上(ルカ)



人を曳き居たり。...

三五 十字架架

マルコ一五の二三・二七  
マタイ三三・三七  
ルカ二三の三  
ヨハネ一九の二

15 かくて 彼等 十字架架  
27 かくて 彼等 所謂  
28 かく 彼等  
19 故に 彼等 イスを  
引取りしが、彼は已  
が爲の十字架を負ひて、  
所謂「十字架」なる「  
ルゴレス」なる「  
體」と呼ぶ  
體」と云はるる  
「  
體」と云はるる  
「  
體」と云はるる  
「  
體」と云はるる

場まで、  
「イス」を運  
場處にへど  
場處に  
云はるる處にへど出往

15 而して  
27 其時  
其處にて、  
19 而して

彼等 「イス」  
人の強盗も  
彼等 「イス」  
其處にて、  
彼等

と共に、  
「イス」と共に  
犯人等と  
共に、又

人を右に  
一人は右  
を、而も  
他の者を  
側にし、且

彼の左にし  
は左にて  
一人を右  
を、中央にし  
彼を磔殺に

十字架(マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネ)











二人へ言  
入るさへお  
一三三  
一四共の  
五の

十字架(マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネ)

一〇二六

マ  
ハ  
マ  
ル  
カ  
ル  
故にエモダヤ人の多数の者はこの稱號  
を讀めり。これイスの磔殺にせられし  
場處は、町に近く在り、かつそのヒ  
プリ・ローマ・ヘレン語等にて、記され有りし  
が故なり。故にユダヤ人等の祭司長等  
ピラトに言ひ居たり。ス  
汝「ユダヤ人等の王」と書くこと勿れ。  
されど此かの者の言ひし(如く書け)。  
「我はユダヤ人等の王なり」。  
ピラト答へぬ。

コ

イ

我が書きたる所の事は、我書きたり。

15 かくて通行し居る  
彼等「イス」を褻瀆し、  
彼等の頭を振りて、言  
へるは、  
同ウリア! 學士等  
汝堂を毀ちて、  
三日の内に、建つる  
者!  
汝十字架より下り

27 かくて通行し居る彼  
等「イス」を褻瀆し、  
彼等の頭を振りて、言  
へるは、  
同ウリア! 學士等  
汝堂を毀ちて、  
三日の内に、建つる  
者!  
汝十字架より下り

30 汝十字架より下り

十字架(マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネ)

一〇二七

ル  
ヨ

カ  
示

ハ



十字架(マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネ)

一〇二九

エネ

32A イスラエルの  
 王メシヤ!  
 今ト彼をして  
 十字架より下  
 らしめよ。  
 それ我等  
 見て、信ずる  
 ことを得ん。

27 彼はイスラ  
 エルの王なり。  
 今ト彼をして  
 十字架より下  
 らしめよ。  
 さらば我等  
 彼を信せん。

のメシヤなら  
 ば、  
 彼をして、  
 己  
 を救はしめよ。

.....  
 .....  
 .....  
 .....  
 .....

43 彼神に信頼  
 したり。  
 今トもし  
 欲せば、  
 彼を

.....  
 .....  
 .....  
 .....  
 .....

十字架(マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネ)  
 て、己を救へ。

一〇二八

汝もし神の子な  
 らば、十字架より下  
 カル

15 祭司长等も亦  
 同様に、文士等  
 と共に、相互に嘲  
 弄して、言ひ居た  
 り。  
 他の者等を  
 彼救へり。  
 己を彼救  
 ひ能はず。

27 祭司长等も亦  
 同様に、文士長  
 老等と共に、嘲  
 弄して、言ひ居たり。  
 他の者等を  
 彼救へり。  
 己を彼救  
 ひ能はず。

23 35B さて祭  
 司长等も亦愚弄し  
 て、言へる  
 は、  
 他の者等を  
 彼救へり。  
 もし此者  
 選まれたる神

ハ E ハ ヨ



十字架(マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネ)

10110

ヨ

.....  
.....  
.....  
.....

曳出さん。  
そは彼我  
は神の子な  
りと言ひけれ  
ばなり。

.....  
.....  
.....  
.....

コ ル マ  
イ タ マ

嘲弄し、  
汝もし十  
救へ。

兵士等も  
亦近寄りて、  
「イス」を

差出して、  
言へるは、  
「己」を

吊されし犯人

15  
32B  
「イス」と共

27  
44  
さて「イス」

23  
39  
さて

ハ

福音二の八  
福音二の八

に磔殺にせ  
られたる彼  
等も亦ト  
彼を罵り居  
たり。

と共に、磔殺に  
せられし強盗  
等も亦同  
じ事を言ひて  
彼を罵り居た  
り。

等の一人「イス」を  
「メシヤ」に非す  
や。  
汝「己」と我等を救  
へ。

23  
40  
されど別の者 答へ、王彼を叱りて、言へり。

さても 汝 尙 神を恐れざるか。

それ 汝 同 じ 審判に於て、在ることを。

41  
而も 我等は、 げに、これ 當然の事なり。

そは 我等 行ひし 丈の報を受け居ればなり。

十字架(ルカ、ヨハネ)

10111

示



パラダイスは  
英語に轉じた  
るヘレン語な  
り。

カルバ(變化  
?)  
ミゲルエル  
(神の塔)

十字架(ルカ、ヨハネ)

10111

されど此者は何等の間違をも行はざりき。

23 彼 尙言ひ續けたり。この當然の事

汝 イス！ 同 汝の王國にへと入る時

汝 我を記憶せよ。 汝の王國にへと入る時

何時にても、 汝の王國にへと入る時

43 (イス) 彼に言へり。

ア-メ-ン！ 我 汝に言ふ。

汝 今日、我と共に、樂園に於て在らん。

19 25 さて イスの十字架の傍には、彼の母も彼の母の姉妹もカルバの妻のマリヤもミゲルエル人マリヤも立ち居たり。故に イス 母と彼の愛し居たる所の者にて

ヨ 示 八 示

傍に立ちたる弟子とを見て、母に言ふ。

女よ！ 汝の子に言ふ。

見よ！ 彼の弟子に言ふ。

見よ！ 汝の母！ その弟子

かくて かの時刻より、己が家族にへと、

女を受入れぬ。 彼

三六 耶蘇の死

(マルコ 一四・一五)

(マタイ 二七・四五)

(ルカ 二四・四四、四五、四七)

(ヨハネ 一九・三三)

耶蘇の死

10111







詩篇六九の二  
 スポンジは英  
 語に轉じたる  
 へレン語な  
 り。「エーソプ」  
 は英語に「ヒ  
 ヨソプ」を云ひ  
 たり。「フソプ」  
 なる。

ユリヤ(わが)  
 神はヤエ、  
 或はわが力  
 はヤエ)

15 かくて 傍に立ち居  
 りし 彼等の 或者の 聞き  
 て、 言ひ居たり。  
 見よ！ 彼 エリヤ  
 を呼ぶ！

36 さて 或者  
 走りて、 海綿  
 に、 酔を含ませ  
 せ、 葦に刺し  
 て、 [イス] に飲  
 ませ居りて、

48 かくて 彼等の  
 中の 一人 直に  
 走り、 海綿を取り  
 て、 酔を含ませ、  
 葦に刺して、 [イス]  
 に飲ませ居りしが、

27 さて 其處に立ち居  
 りし 彼等の 或者の 聞き  
 て、 言ひ居たり。  
 此者は エリ  
 ヤを呼ぶ。

19 酔の 満てる  
 器に 置かれあり  
 き、 故に 酔を  
 含ませたる 海綿  
 を エーゾーブ  
 に刺して、 [イス]

カ ル  
 ネ ハ ヨ

耶蘇の死(マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネ)

一〇三六

言へるは、 聖書に  
 記されし こと  
 あり。 餘の者等  
 言へ

49 餘の者等 言へ  
 たり。

カ  
 の口に差付けぬ。

汝等 措け。 我等を  
 して、 見しめよ。  
 彼を下さんとて、  
 エリヤを來るかぞ。

汝等 措け。 我等を  
 して、 見しめよ。  
 彼を救はんとして、  
 エリヤを來るかぞ。

カ  
 ル  
 ネ  
 ハ  
 ヨ

コ ル マ  
 イ タ マ  
 呼はりて、 言へり。  
 父よ！

23 かくて イス 大聲に  
 呼はりて、 言へり。  
 父よ！

19 故に 酔を受けし  
 時、 イス 言へり。  
 それ 成就したり。

耶蘇の死(マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネ)

一〇三七



アモス書八の九、九の一  
後期即ちイエ  
ルサレム傳説  
らに基くものな

マ  
ル  
コ  
イ  
タ  
マ

耶穌の死(マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネ)

一〇三八

汝の手にへど、我わ  
が靈を托す。

大  
聲  
を  
放  
ち  
て、  
氣  
息  
を  
絶  
て  
り。

再  
度、  
大  
聲  
に  
叫  
び  
て、  
靈  
を  
放  
て  
り。

彼  
れ  
を  
言  
ひ  
つ  
つ、  
氣  
息  
を  
絶  
て  
り。

頭  
を  
垂  
れ  
て  
靈  
を  
渡  
せ  
り。

下  
ま  
で  
上  
よ  
り  
堂  
の  
幕  
に

聖  
徒  
等  
の  
多  
數  
の  
體

裂  
け、  
墓  
開  
け、

起  
上  
り、

而

中  
央  
の  
幕

時  
に

下  
ま  
で、

二  
に  
裂  
け、

地  
震  
ひ、

岩

蝕  
し  
て、

マ  
ル  
コ  
(  
下  
部  
)

二  
に  
裂  
け

明  
に

多  
數  
の  
者  
に  
現  
れ

入  
り

中  
に

裂  
け

向  
に  
立  
ち  
居  
た  
り

彼  
と  
共  
に

及

及

百

百  
夫  
長、

守  
り  
居  
る

等

夫  
長

起  
れ

如  
く  
に  
氣  
息  
を  
絶  
て  
る  
を  
見  
て、

地  
震  
と  
起  
る  
事  
を

言

を

神  
に  
同  
榮  
光

眞  
に  
此  
人  
は

眞  
に  
此  
は

眞  
實

眞  
實

眞  
實

神  
の  
子  
な  
り  
き。

神  
の  
子  
な  
り  
き。

神  
の  
子  
な  
り  
き。

義  
人  
な  
り  
き。

義  
人  
な  
り  
き。

耶穌の死(マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネ)

一〇三九

示

ハ  
ハ

ヨ  
ハ



サロメ(平和)

15<sup>40</sup> さて 遠方より  
眺め居れる女等も  
在りき。 かつ 彼  
女等の中には、  
グダルエル人マリ  
ヤも、 小ヤコブ・ヨ  
セの母マリヤも、  
サロメも在りき。

27<sup>55</sup> さて 遠方よ  
り、 眺め居れる多  
数の女 其處に  
在りき。 彼女等  
は、 イスに給仕  
しつつ、 ガリラ  
より、 彼に隨行  
せし程の者にて、

28<sup>48</sup> かくて入こ  
の光景に引付  
けられ居たる  
群衆一同、 起  
れる事を眺め  
て、 胸を打ち  
つつ、 歸り始  
めたり。 49 され  
ども、 [イス]に親  
める者一同  
及び ガリラ

ハ ハ ヨ

給仕し居たる所の  
者なりしが、 亦  
彼と共に、 イエルサ  
レムにへど上りし  
他の多數の女も  
在りき。

給仕し居たる所の  
者なりしが、 亦  
彼と共に、 イエルサ  
レムにへど上りし  
他の多數の女も  
在りき。

ヤコブ・ヨセフの  
母マリヤも、  
ブダイの子等の  
母も 在りき。

より、 共共  
彼に隨行せる  
女等は、 此等  
の事を眺めつ  
つ、 遙に立ち  
居たりき。

ネ

19<sup>31</sup> 故に ユダヤ人等  
に、 特にかの大安息日  
に、 彼の腰を折りて、  
取去らんことを、  
ピラトに  
請へり。 故に 兵士等  
來りて、 まことや  
最初の者と  
又 彼と共に 磔殺に  
せられし他の者との  
腰を折れり。

耶蘇の死(ヨハネ)

一〇四一



出埃及記二  
の四六  
民數記九の  
二  
詩篇三四の二  
○セカルヤ書一  
二の二〇  
LXXには「彼等  
侮辱せし所の  
彼を」有り。

耶蘇の死(ヨハネ)

れど 彼等 イスの傍に來りて、彼の既に死にたるを  
見しかば、彼等彼の脛を折らざりき。19 34されど兵士  
等の一人その鎗にて、脇を刺ししに、直に血と水と  
出で來れり。  
19 35かくて眺めたる所の彼證明し、而も彼の證明は  
眞實なり。而して汝等も亦信するやう、かの者  
眞實なる事を言ひ居るを知れり。36そは書の全うせら  
るるやう、此等の事起りければなり。  
彼の骨は砕かれざるべし。  
37更に別の書も亦言ふ。  
彼等刺通しし所の彼を仰ぎ見ん。

一〇四二

三七 耶蘇を葬る

15 かくて 既に	27 夕と成り	23 かくて 日は	19 故に、ユ
特に安息日	て、アリ	息日は明け始	ダヤ人等の
前の支度日な	マサヤよ	めたり。時に、	支度日の故
りしかば、貴	りの富め	見よ！議員に	に、此等の
き議員にして、	る人にて、	して、「ヨセフ」	事の後、ア
而も自ら	而も自	名づくる男！	リマサヤよ
神國を待望め	ら イス	善且義なる	りのヨセフ
			とて、イス

(マルコ  
五の四二一  
四七)

(マタイ  
七の五七一  
六一)

(ルカ  
二の三五  
五〇一五  
五三  
五五  
五六上)

(ヨハネ  
一の一九の  
上・三八一  
四二下  
四一)

アリマサヤ  
(高處?)

耶蘇を葬る(マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネ)

一〇四三



る所のアリマ  
サヤよりのヨ  
セフ 來り、  
意を決して、  
ピラトの許に  
入り、而して  
イスの體を請  
求せり。

に弟子た  
りし「ヨ  
セフ」を名  
づくる者  
來れり。  
27 此者  
ピラトに  
近寄りて、  
イスの體  
を請求せ  
り。

男！  
ユダヤ人等の町  
アリマサヤより  
の者、彼等の協  
議にも、行爲にも  
賛成せざりし者  
なりき。 此者  
ピラトに近寄り  
て、イスの體を  
請求せり。

の弟子なり  
しも、ユダ  
ヤ人等を恐  
れて、隠れ  
居たりし者  
イスの體を  
取去らん事  
をピラト  
に請へり。

ル

15 されど、ピラト  
死にたるやを怪み、  
百夫長を呼寄  
せて、(イスの) 既に死ねるやを質  
問し、百夫長より聞識りて、その  
體を ヨセフに賜へり。

其時、ピ  
ラト(そ  
の體の)  
渡さるる  
やう、命  
せり。

而し  
て、ピラ  
ト 許せ  
り。

46 かく  
て(ヨ  
セフ)  
印度布  
を買ひ、

27 かくて  
ヨセフ  
その體を  
取りて、  
其を清

23 かく  
て(ヨ  
セフ)  
體を取  
下して、

故に(ヨセフ) 來りて、  
「イス」の體を取去れり。  
最初に、夜「イス」の許に來  
りし彼なるニコデモも亦  
百リツラ程の没薬と蘆薈と







三八 兵士の護衛 (マタイ二七の六二―六六)

土曜 日即ち安息日

27 さて 翌日、即ち 支度日の後、祭司長、パリサイ人等  
 ピラトの許に集りて、言へるは、  
 主君！  
 かの 蠱惑者の存命中、言ひし事を我等記憶せり。  
 「三日の後、我復活す」  
 故に 第三日まで、墳塋を保管するやう、汝命せよ。  
 恐らくは 弟子等 來りて、彼を盗まん。  
 而して 彼等 人民に言はん。  
 「彼 死人の處より復活せり」  
 さらば 最後の迷は 最初のよりも、更に悪からん。

日 即ち安息日

65 ピラト 彼等に言へり。  
 汝等に 番兵あり、  
 汝等の 知れる如く、  
 66 爰に於て、  
 彼等 進みて、  
 石を封じ、  
 墳塋を保管せり。



第八章

耶蘇の復活と昇天

一〇五〇

一 耶蘇 マリヤ等に現る

(マルコ一八)

(マタイ二八)

(ルカ二三の五六下、二四の二三)

(ヨハネ二〇)

日曜日

「命令はモ  
セの律法な  
り。」

16<sub>1</sub> かくて安息日も過ぎしかば、ミグダエル人マリヤ・ヤコブの(母)マリヤ・サロメ等往き

28<sub>1</sub> さて安息日も暮れ、週の初日の明方、ミグダエル

23<sub>56B</sub> かくて命令に従ひて、まことや安息日を休み。24<sub>1</sub> されど一週の初日、朝早く、彼女等の

20<sub>1</sub> さて一週の初日、朝早く、尙暗きに、

て、「イス」に塗ら

んとて、香料を買ひ、一週の初日、いと早く、(出でて、日の昇りし頃、墓に到る。

而して彼女等相互に言ひ居たり。誰か我等の爲に、墓の戸よ

エル人マリヤも他のマリヤを眺めんとして、到れり。

24<sub>10A</sub> ミグダエル人マリヤもヨハナもヤコブの(母)マリヤも餘の女等も彼女等と共に在りき。

ミグダエル人マリヤ墓にへど到る。

而して彼女等相互に言ひ居たり。誰か我等の爲に、墓の戸よ

而して見よ！大なる地震起れり。そは主の使者天より下り、近寄りて、

24<sub>2</sub> さて彼女等墓よ

而して彼女等墓

耶蘇 マリヤ等に現る(マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネ)

一〇五一



り石を轉ばし退  
くべきか。

16<sub>4</sub>そは(その石)

甚だ大なりければ

なり。而して彼

女等仰ぎ眺めて、

石の既に轉ばし

上げられしを視る。

而して

28<sub>5</sub>さ

石を轉ばし退け、而

して其上に坐し居

たればなり。28<sub>3</sub>さて

彼の容貌は電光の

如く、彼の衣服は

雪の如く白かりき。

28<sub>4</sub>而して彼の恐怖

よりして、守り居る

彼等慄きて、死人

の如く成りき。

24<sub>3</sub>さて

彼女等

入りて、

主イ

し退け

られた

る石を

見出せ

り。

の中

より

取除

かれ

たる

石を

眺む。

彼女等墓

にへど入り、

白き衣を纏

ひ、右に坐

せる青年を

見て、甚く

驚けり。さ

れど[青年]

彼女等に言

ふ。

汝等、甚く恐

る勿れ。

れど

使者

答へ

て、

女等

に言

へり。

その體を見出さざりき。さる程

に、彼女等此事に就いて、自

ら途方に暮れ居れるに、見

よ！煌ける衣を着たる二人の

男、彼女等の傍に立てり。彼

女等、恐れて、面を地に伏せ

居れるに、彼等彼女等に向ひ

て、言へり。

恐る勿れ。

汝等！

耶穌 マリヤ等に現る(マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネ)



磔殺にせられ  
たるナザレ人  
イスを 汝等  
求む。

彼 復活せり。

彼 此處に在

ら

白らす。  
コハ人  
...

そは 磔殺に  
せられたるイ  
スを、 汝等  
求め居ること  
を 我 知れ

ばなり。

28 彼 此處に在

ら

そは 彼 言

ひし如く、 彼

復活しければ

なり。

何故に 死ね  
る 彼等と共  
に 活ける 彼  
を 汝等 求め  
居るか。

24 彼 此處に在

ら

されど 彼

復活せり。

...

見よ！ 彼を  
置きし場處！

16 されど 汝等

退け。 汝等

彼の弟子等に

言へ。 而も

ベツロに。

.....  
.....  
.....  
.....

耶穌 マリヤ等に現る(マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネ)

汝等 來れ。  
彼の 横へ置  
かれたる場處  
を見よ。 言へ  
7 汝等 速に進  
みて、 彼の弟  
子等に言へ。

彼 死人の處

より復活せり。

而も 見よ！

.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....



彼 汝等に先  
 立ちて、ガリ  
 ラにへと往く。  
 彼 汝等に言  
 ひし如く、彼  
 處にて、汝等  
 彼を見ん。

彼 汝等に先  
 立ちて、ガリ  
 ラにへと往く。  
 彼處にて、汝  
 等 彼を見ん。

彼 尙ガリ  
 ラに於て在り  
 し時

天の御子、  
 彼等に言は  
 れば、汝等  
 彼を見ん。

見よ！我我  
 汝等に言へり。

彼 汝等に先  
 立ちて、ガリ  
 ラにへと往く。  
 彼處にて、汝  
 等 彼を見ん。



16 かくて 彼女等  
 出で來りて、  
 墓の處より逃  
 げぬ。そは 彼  
 女等 戦慄し仰  
 天し居たればな  
 り。尚又 彼女  
 等 誰にも、何  
 をも言はざりき。  
 そは 彼女等

28 かくて  
 彼女等  
 恐怖と大  
 なる喜悅  
 とを以て  
 速に 墓  
 の處より  
 去り、 彼  
 の弟子等  
 に告げん

24 かくて 彼女等  
 「イス」の  
 言ひし事を記  
 憶せり。而し  
 て 彼女等  
 墓の處より  
 歸り、 凡て此  
 等の事を 十  
 人の者及び  
 餘の者一同に

20 故に 彼女等  
 走り、  
 シメオン  
 ペツロの許  
 にもイスの  
 愛し居たる  
 所の他の弟  
 子の許にも  
 到りて、 彼  
 等に言ふ。

恐れたればなり。

とて、 走

告げぬ。

ル

28 時に、見よ、  
 彼女等に會ひて、  
 言へ

汝等 祝へ。

彼女等 近寄り、  
 彼の足を押へて、  
 彼を拜せり。

其時、  
 イス 彼女等に言ふ。

汝等 恐るること勿れ。  
 わが兄弟等に告げよ。

汝等 退け。汝等  
 ガリラにへと赴くやう。

彼等の  
 彼處にて、  
 彼等 我を見ん。

カ  
 ネ

ハ

ヨ



24 彼女等 此等の事を、使徒等に  
 に向ひて、言ひ居たるに、此等  
 の言は、彼等の前に、妄語の如  
 く見えければ、彼女等を  
 信じ居らざりき。

12 されど 故に ペツロ 及び 彼の弟子も 出往き  
 ペツロ 墓にへと往き 始めたり。さて 二人 共  
 立上りて 走り居たるに、他の弟子、ペツロよりも、速  
 墓の處 に入り、墓にへと到り、覗き  
 に走り、横はれる布片を眺め居れども、敢て

かつ 覗き込みて、ただ布片のみを眺め、而して起りし事を自ら怪みつつ、去れり。

入り、故にシメオン、ペツロも、亦  
 彼に續いて、來り、墓の中に入り、横はれる  
 布片と手巾とを視る。而も「イス」の頭の上に  
 在りしその手巾は、布片と共に横へられず、  
 ただ別に疊まれて、他の場處に在りき。故  
 に、其時、最初に、墓にへと到りし他の弟子  
 も、入り、彼も亦見て、信せり。そは  
 彼等、未だ「彼」死人の中より、復活せざる  
 可らずとの書を知らざりければなり。故に  
 弟子等、再度、己等の處に赴けり。

耶蘇 マリヤ等に現る(ヨハネ)

20 されど マリヤ 泣きつつ、墓に向ひて、外部に立ち



居たり。故に彼女泣く泣く、墓を覗き込み、<sup>20</sup> イスの體の横へられし處に、一人は頭の方に、一人は彼の足の方に、白装束にて坐せる二人の使者を視るに、<sup>20</sup> 其等の者彼女に言ふ。  
 彼女よ！  
 何故に汝泣き居るか。  
 彼女 彼等に言ふ。  
 彼等 而わが主を取去れり、我共知らず。かく而も何處に、彼を置きしやを、我共知らず。振向けり。かく此等の事を言ひて、彼女背後にへと振向けり。かくて、彼女立ち居たるイスを視れども、而もそのイスなることを、彼女知らざりき。

ヨハネの福音書  
 第二十章  
 十一節  
 十二節  
 十三節  
 十四節  
 十五節  
 十六節  
 十七節  
 十八節  
 十九節  
 二十節

15 イス

彼女に言ふ。

女よ！

何故に汝泣き居るか。  
 誰を汝求め居るか。  
 その女 (彼を) 園丁なりと思ひて、彼に言ふ。  
 君よ！

16 イス

彼女に言ふ。

女よ！

汝もし彼を運びしならば、  
 汝何處に彼を置きしやを、我に言へ。  
 さらば我彼を取去らん。

マリヤ

彼女に言ふ。

その女、振向き、ヒブリ語にて、彼に言ふ。



「ヒアリ語にて  
「ラアビー」は  
「わが大なる  
者」わが尊敬  
する者」アラ  
ミ語にて「リ  
アポーニー」  
は「わが主」な  
り。  
一六節の「我  
に取纏る勿  
れ」は或は「我  
に觸る勿れ」  
ともあり

耶蘇 マリヤ等に現る(ヨハネ)

一〇六四

ラアアビー！  
即ち「先生！」と云ふ事なり。 20 イス 彼女に言ふ。

汝 我に取纏る勿れ。  
そは 我未だ父の許に昇らざればなり。

されど 汝 わが兄弟等の許に進め。

而して 汝 彼等に言へ。

我 汝等の父なるわが父の許に、

而も 汝等の神なるわが神の許に昇る。

20 ミダダエル人マリヤ 我主を見たり。而して 彼

此等の事を、彼女に言へりと、弟子等に告げつつ来る。

二 祭司長番兵等の密約 (マタイ二五)

28 11 さて 彼女等 進めるや、見よ！ 番兵の或る者等

町にへと入来りて、起りし萬事を 祭司長等に告げしか

ば、彼等 長老等と共に集りて、協議し、多額の銀を

兵士等に與へて、言へるは、トス

汝等 言へ。 汝等の目を

「夜、彼の弟子等 来りて、彼を盗めり」

我等の 睡れる間に、彼を盗めり」

14 たとひ 此事 總督に聞ゆども、

我等 説付けて、汝等に 心配 無からしめん。

15 さて 「兵士等」 銀を取りて、彼等が 人教へられし如く

爲せり。而して 此言 ユダヤ人等の間に言振らされて、

今日の日にまで(及びぬ)。

祭司長番兵等の密約(マタイ)

一〇六五



今日のヨハネ三章八節 耶穌 クレオバ等に現る (ルカ二四の一三)

24 時に、見よ！ 同日、<sup>13</sup> 彼等の中の二人、<sup>14</sup> イゼサレムより、<sup>15</sup> 六十五スタヂヨ 隔れる「ネムマオ」と名づくる村にへ  
 と進み居たが、<sup>16</sup> 彼等相互に、<sup>17</sup> 凡て此等の出来事に就いて、<sup>18</sup> 話し合ひ居たり。近づく程に、<sup>19</sup> 彼等話し合ひ尋ね合へるに、<sup>20</sup> イesus 自ら近づきて、<sup>21</sup> 彼等と共に、<sup>22</sup> 進み居たり。<sup>23</sup> されど、<sup>24</sup> 彼等の目は、<sup>25</sup> 押へられありて、<sup>26</sup> 彼等明に識ることを得ざりき。<sup>27</sup> イesus 彼等に向ひて、<sup>28</sup> 言へり。  
 汝等歩みながら、<sup>29</sup> 相互に問答し居る。何ぞや、<sup>30</sup> 萬事も、<sup>31</sup> 禁所具善に去りし。彼等、<sup>32</sup> 此等の事は、<sup>33</sup> 何ぞや、<sup>34</sup> 萬事も、<sup>35</sup> 禁所具善に去りし。彼等、<sup>36</sup> 憂き容貌にて、<sup>37</sup> 立止まりしが、<sup>38</sup> 耶穌タレオバと名づ

くる一人、<sup>39</sup> 答へ、<sup>40</sup> 「イesus」に向ひて、<sup>41</sup> 言へり。  
 汝は、<sup>42</sup> 独り「イesus」に於ける旅人なるか。  
 近頃、<sup>43</sup> 彼處に於て起りし事を、<sup>44</sup> 汝識らざるか。  
 19 「イesus」<sup>20</sup> 彼等に言へり。  
 如何なる事ぞや。  
 彼等、<sup>21</sup> 彼に言へり。  
 ナゼレ人、<sup>22</sup> イesus に就ける事を。  
 神と人民一同の前に、<sup>23</sup> 行と言ふに於て、<sup>24</sup> 有力なる預言者と成りし所の男の事を。  
 20 また、<sup>25</sup> 如何に、<sup>26</sup> 祭司長及び、<sup>27</sup> 我等の長等、<sup>28</sup> 彼を死の宣告に附して、<sup>29</sup> 彼を磔殺にせしかを。  
 21 然るに、<sup>30</sup> 我等、<sup>31</sup> 彼こそ、<sup>32</sup> 將に「イesus」ラエルを



贖はんとする者なれと望み居たり。されどまことや凡て此等の事のみならず、此等の事の起りてより、これ第三日なり。即ち人彼等朝早く、墓に臨みしが、<sup>23</sup>「イス」の體を見出さずして、來り、言へるは、<sup>24</sup>「彼、活く！」と言へる所の使者等の靈顯を見たり。且我等と共にし彼等の或者も、墓に臨みしに、<sup>25</sup>「イス」をば、彼等見出さざりき。爰に於て、「イス」自ら彼等に向ひて、言へり。

預言者等の語りし凡ての事を信するに、心の鈍き者！<sup>26</sup>「メシヤは而此等の事を苦まざる可らざるは非ざりしか。而して彼の榮光に入らざる可らざるに非ざりしか。かくて心(イス)モトセより始めて、凡ての預言者よりの凡ての書に於ける已に就ける事を、彼等に詳細に説明せり。而も彼等進み居たる所の村にへと近づきしも、彼等自ら尙進に進まんとするが如く爲じしかば、<sup>29</sup>彼等彼に強ひて、言へるは、<sup>30</sup>汝我等と共に留れ。而も汝等夕に垂んとす。而も(イス)既に傾きたり。



而して(イヌ) 彼等と共に留らんとて、  
 程に、彼等と共に、食に就きし時、彼  
 祝し、缺きて、共彼等に渡し居りしに、  
 けて、彼等明に彼を識りしかば、彼  
 り、見えざる者と成れり。而して、  
 途上、彼等我等に語り居たる時、  
 彼等書を我等に開きたる時、  
 我等の心、我等に於て、燃え居たりしに  
 24 かくて、同時に、彼等も立上りて、  
 と歸れり。而して、彼等も亦自ら途上  
 及び(イヌ) パンを缺きし時、如何に  
 か等を物語り居たり。...

四等

耶蘇はベツロに現れ、

十二人

十二人に現る

十一人

第一に、汝等に傳へたればなり。

の者及び

我が受けし所の物を、

に伴へる者等

且、葬られ、又書に應じて、

を見出せり。

第三日に、復活したり。

眞實の主

復活したり。



耶蘇ヘツロに現れ、後十二人に現る(ルカ、コリント前書)一〇七二

彼シメオンに

彼十二人に現れぬ

も現れぬ

コリント前書

耶蘇奉晩餐の十人に現る

コリント前書

コリント前書

耶蘇奉晩餐の十人に現る

コリント前書

此等の事を語れ

故に、かの日、即ち、一週の初日の

に、(イス)自

夕にて、而も(ユダヤ人等の恐怖の故

に立ちて、彼等

立ち、而して見彼等に言ふ。

に言ふ。

平和 汝等に!

平和 汝等に!

め居ることと思ひ居たり。

驚き、竦み、怖氣付きて、(幽霊を眺

へり。

何故に、汝等 狂亂し居るか。

何の理由にて、汝等の心に、疑惑起るか。

汝等 わが手、わが足を見よ。

汝等 我なり。

我自身なり。

汝等 撫でよ。

汝等 見よ。

それ 汝等 我が有てを視る如く、

それ 汝等 我が有てを視る如く、

耶蘇 晩餐の十人に現る(ルカ、ヨハネ)

一〇七三

ネ 手 ハ 目 ハ ネ



(幽)靈は肉をも骨をも有たざるなり。

24 此事を言ひて、(イエス)手

と足を彼等に示せり。

41 されど由尙喜悅の餘り、

彼等信せずして、怪み居

れるに、(イエス) 彼等に言へ

り。

汝等 此處に、何をか食す

42 さて 彼等 焼魚一片を、

取りて、 彼等の前にて、食せり。

20 此事を言ひて、(イエス)手

と脇を 彼等に示せり。

故に 弟子等 主を見て、ハ

喜べり。故に イエス 再度

彼等に言へり。

何をか、食すべき物を有てるか。

彼に渡しければ、彼

食せり。

示 八 日

平和 汝等に！

父の 我を派遣したる如く、

正に斯く、我も 汝等を遣す。

22 此事を言ひて、 彼 氣息を吹掛け、而して 彼等に言

ふ。

汝等 聖靈を受けよ。

23 もし 汝等 何人の罪をか 赦さば、

それ 彼等に赦されたり。

もし 汝等 何人の罪をか 押へ置かば、

それ 彼等に押へ置かれたり。



「ザンモ」はヘ  
レン語の「雙  
兒」にて、「テ  
オム」はヒブ  
ナリ語の「雙兒」

耶蘇 晩餐の十人に現る(ヨハネ)

一〇七六

20 されど イスの 來りし時、十二人の中の一人なる「ヂ  
ツモ」と云はるるテオム、彼等と共に在らざりき。故に  
他の弟子等、彼に言ひ居たり。

我等 主を見たり。  
されど 彼 彼等に言へり。

我 彼の手に於ける釘の痕を見るに非ざれば、

わが指を 釘の痕に投ずるに非ざれば、

わが手を 彼の脇に投ずるに非ざれば、

我 決して信せざるべし。

六 耶蘇 テオム等に現る (ヨハネ二〇  
の二六―二九)

第二日曜日

第二日曜日

20 かくて 八日の後、彼の弟子等、再度、内部に居りし  
が、テオムも、彼等と共に在りき。戸は閉ぢられたる  
に、イス、來る。而して、彼、中央にへと立ちて言へり。

平和 汝等に！  
次に 彼、テオムに言ふ。

汝の指を 此處に差出せ。中、十一人、

而して わが手を見よ。  
汝の手を 差出せ。

而して わが脇にへと投せよ。  
汝、不信者たる勿れ。

されど、汝、信者と成れ。  
28 テオム、答へて、彼に言へり。

耶蘇 テオム等に現る(ヨハネ)

一〇七七



わが主!

わが神!

20 イス 彼に言ふ。

それ 汝 我を見たるを以て、信じたるか。

幸福なるかな、見ずして、而も 信せし彼等!

七 七 七 ガリラ山中、十一人に現る(マタイ二八)

第三日曜日

28 さて 十一人の弟子、イスの 彼等に命せし所のガリラの山にへそ進み入り、<sup>17</sup>彼を見て、<sup>17</sup>拜せしが、或る者等は 疑へり。

第四日曜日

八 八 八 ガリラ湖畔、七人に現る(ヨハネ二二)

21 此等の事の後、イスらチペリヨの海の邊にて、再度

己を 弟子等に現せり。時さて、<sup>17</sup>斯の如くに現せり。シメ

オン、トベツロ・「チヅモ」と云はるるテオム・ガリラのカナよ

りのナサンエル・ザブダイの「子等」及び 彼の弟子等の中

の他の二人も 共に在りき。シメオン、ベツロ、彼等に

言ふ。

我 漁らん爲に、退く。

彼等 彼に言ふ。

我等も 亦 汝と共に往く。

かくて 彼等 出往きて、舟に乗れり。而も かの夜、

ガリラ湖畔、七人に現る(ヨハネ)



彼等 何をも漁らざりき。既すでに朝あさと成りて、

イス 濱はまに立たてり。併しかし弟子等でし。そのイスなること

を知らざりき。故ゆゑにイス 彼等かれらに言いふ。

童等わらわちよ!

恐おそらくは、汝等なんぢらに、何なんの肴さかなも 無なからん。

彼等かれら 彼かれに答こたへぬ。

無なし。

216 「イス」 彼等かれらに言いへり。

汝等なんぢら 網あみを、舟ふねの右側みぎがはに投なげよ。

さらば 汝等なんぢら 見出みいださん。

故ゆゑに 彼等かれら 投なげけるが、魚うま 多おほくして、最も早はや 網あみを曳ひ

くことも叶かなはざりき。故ゆゑに イスの愛あいし居ゐたる所ところのか

の弟子でし ペツロに言いふ。

それ 主しゅなり!

故ゆゑに シメオン ペツロ 「それ 主しゅなり!」と聞きけるや、

彼かれ 裸はだか體かなりしかば、外ぐわい套たうを纏まとひて、自みづから 海うみに飛ひ込こめ

り。されど 他たの弟子等でしは、土つち陸りくより遠とほからず、たゞ 二

百ひやく アムマ計はかりなりしかば、魚うまの網あみを曳ひきつつ、小舟こぶねにて、

來きたれり。故ゆゑに 彼等かれら 土ち陸りくせし時とき、熾たかされたる炭火すみび、載の

せられたる肴さかな 及およびパンを眺ながむ。イス 彼等かれらに言いふ。

汝等なんぢら 今いま 漁うりし所ところの中うちより、肴さかなを齎もたらせ。

故ゆゑに シメオン ペツロ 上ありて、百ひやく五ご十三じゅう尾びも、

大おほなる魚うまの満みてる網あみを、陸りくにへと曳ひけり。斯か程ほどなりし

かぞへ、而しかも 網あみは裂さけざりき。イス 彼等かれらに言いふ。

ガリラヤ湖畔、七人に現る(ヨハネ)

「アムマ」はヒ  
アリ語なり。  
先より中指の  
一英尺七寸程  
なり。



第五日曜日  
パウロの此書  
は紀元五十二  
年頃ならん

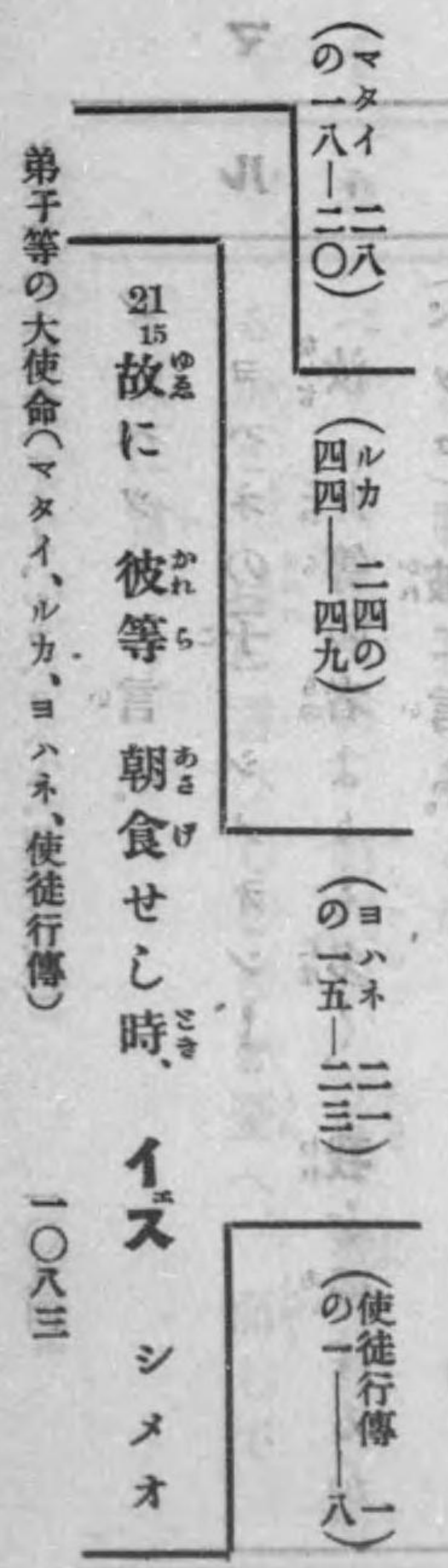
一〇八二  
カリラ湖畔、七人に現る(ヨハネ)  
いざ来れ。汝等朝食せよ。  
弟子等其の主人なることを知りて、更一人だも「汝誰  
なるか」と、敢て彼に尋ねざりき。21 イス正來り、具バン  
を取り、而して彼等に與ふ。彼香着をも亦同様に  
せり。14 イス死人の中より復活して、弟子等に現れしは、  
之にて、既に第三次な現き。11  
九野の五百人以上に現る(コリント前書) 二五の六  
15 其後、(イス)一度に、五百人以上の兄弟に現れぬ。  
彼等の大多数は、唯今までも、生存ふ。  
されど、或る者等は既に眠れり。

第六日曜日

パウロのダマ  
スコ行は紀元  
三十年頃なら  
ん

15 其後、(イス)ヤコブに現れぬ。  
其後、凡ての使徒等に(現れぬ)。  
さて、凡ての者の最後に、月不足の如き、  
我にすら、(イス)現れぬ。  
一〇 ヤコフパウロ等に現る (コリント前書) 一五の七一八

弟子等の大使命



第七日曜日



マ  
ル  
タ

弟子等の大使命(マタイ、ルカ、ヨハネ、使徒行傳)

シ 彼に言ふ。

ヨハネの子) シメオン!

汝 此等の者よりも多く、我を愛するか。

(ペツロ) 彼に言ふ。

然り! 主よ! 大使命

汝 自ら 我が 汝を慕ひ居ることを知

る。

(イス) 彼に言ふ。

汝 汝が小羊を飼へ。

第二次(イス) 再度 彼に言ふ。

ヨハネの子) シメオン!

汝 我を愛するか。

徒

使

イ  
カ

弟子等の大使命(マタイ、ルカ、ヨハネ、使徒行傳)

(ペツロ) 彼に言ふ。

然り! 主よ!

汝 自ら 我が 汝を慕ひ居ることを知

る。

(イス) 彼に言ふ。

汝 わが羊を牧せよ。

第三次(イス) 彼に言ふ。

トヨハネの子) シメオン!

汝 我を慕ひ居るか。

ペツロ(イス) 第三次 汝 我を慕ひ居

るか。己に言ひしことを愛へ、而して

「イス」に言へり。

行

傳



主よ！

汝自ら凡ての事を知る。汝自ら我が汝を慕ひ居ることを識

る。

イス 彼に言ふ。

汝三わが羊を飼へ。

21 アーメーン！

我 汝に

汝 若かりし時、

汝 自ら帶して、欲する處を歩み居たり。

されど 汝 老いたらん時、

汝 己の手を伸べん。

使

徒

タ

マ

ル

セ

カ

而して他の者 汝に帶せん。

而も 汝の欲せざる處に、汝を運ばん。

19 さて(イス)ベツロの如何なる死にて、

神に中榮光あらしむべきかを諷して、此事

を言へり。かつ此事を言ひて、(イス)「ベ

ツロ」に言ふ。

汝 我に隨行せよ。

20 ベツロ 振向きて、イスの 愛し居たる

所の者、即ち晚餐に於て、「イス」の胸に倚

掛りて、「主よ！ 汝を渡し居る彼は 誰な

るか」と言ひし弟子の隨行せるを眺む。故

に主ベツロ 此者を見て、イスに言ふ。

行

傳



マ  
ル

タ  
カ

主よ！

さて此者は如何。

21 イス

彼に言ふ。

我もし彼をして、我が来るまで、留らしめんと欲するとも、

それ汝に何か有らんや。

汝自ら

我に隨行せよ。

故に「かの弟子死なす」この此言、兄弟

等の中に、往渡りしが、イスは「彼死な

す」と、「ベツロ」に言はざりき。されど「我

もし彼をして、我が来るまで、留らし

めんと欲するとも、それ汝に何か有ら

使徒

イ

24 さて (イス) 彼等に向ひて、言へり。

此等は、我尙汝等と共に在りて、

汝等に向ひて、語りし所のわが言なり。

「モーセの律法、預言者詩篇等に於て、

我に就いて記されたる凡ての事は、全うせら

れざる可らず。」

其時、(イス) 書を悟らしめんとて、彼等の智

能を開き、而して彼等に言へり。

斯の如く、記されたり。

「メシヤ、苦まん。而して彼 第三日に、死

行 計 對 傳



人の中より復活せん。

24 彼の名に基きて、罪の赦免の爲に、改心は

イエルサレムより始めて、萬國民にへと説教せ

られん。

48 汝等は此等の事の證人なり。

49 而も見よ！我自らわが父の全約束せ

し者を、汝等の上に派遣す。

されど、汝等上よりの能力を着せらるるま

で、自ら貴町に於て留れ。

11 ああ、セオフロよ！

げに、イス、爲し、かつ、教へ始めし所の

マ

タ

使徒行傳

凡ての事に就いて、我第一の記録を作り、

2 イス、その選みし使徒等に、聖靈を通じて、命令し、

(而も彼、天に引上げられし所の日にまで及べり。

3 彼又、受難の後、多數の實證に於て、活ける已

を、彼等に示し、

四十日の間、彼等に現れて、神國に就ける事を言

ひ居たり。

4 且、彼共に集り居りて、彼等に、イエルサレムを

離れず、

されど、「汝等、我より聞きし所の父の約束を待つ

べし」と命せり。

イ



15 げに、それ、ヨハネは(嚮に)水にて洗せり。  
されど、汝等は遠からず、聖靈に於て、洗せられん。

6 故に、集りし彼等、彼に質問し始めて、言へるは、  
主よ!

7 此時に於て、汝、イスラエルの王國を恢復するか。  
彼、彼等に言へり。

8 父、自ら己の權威に於て、定めし所の時や、  
時期は、汝等の非識るべきものに非ざるなり。

9 されど、聖靈、汝等の上に臨める時、

タ

マ

イ

10 汝等、能力を受けん。  
イルサレムに於ても、全ユダヤに於ても、  
サマリヤにても、地の終極に到るまでも、  
汝等、わが證人たらん。

28 かくて、イヌ、近寄り、彼等に語りて、言へるは、

天に於ても、地上にても、有ゆる權威は、我に與へられぬ。

19 故に、汝等、進みて、萬國民を、弟子と爲せ。  
父と子と聖靈との名にへど、彼等を洗して、

20 我が、汝等に命せし程の凡ての事を守るやう、彼等に  
教へて。



見よ！ 現世の終末まで、何日の日も、我 汝等と共に在り！

一二 耶蘇の昇天

(ルカ二四の五〇—五三)

(使徒行傳の九—一一)

24 50 さて (イス) 彼等を、ベスアニヤに到るまで、導き出し、彼の手を舉げて、彼等を祝せり。51 是る程に、彼等<sup>かれら</sup>を祝せるに、彼等より離れて、彼<sup>かれ</sup>天<sup>てん</sup>にへと運び上げられたり。52 而して<sup>しかう</sup> 彼等<sup>かれら</sup>自ら<sup>みづか</sup> 彼<sup>かれ</sup>を拜し、大なる喜悅を以て、イェルサレムにへと歸れり。

使徒行

53 而して 宮に於て、彼等 絶えず、神を祝し居たり。

傳

1 かくて (イス) 此等の事を言ひけるや、彼等 眺め居れるに、  
彼<sup>かれ</sup> 引上げられ、而して 雲 彼<sup>かれ</sup>を受けて、彼等<sup>かれら</sup>の目より離れ去りぬ。

10 かつ 彼<sup>かれ</sup> 進めるや、彼等<sup>かれら</sup> 天<sup>てん</sup>を見詰め居たるに、見よ！ 白衣の男二人 彼等<sup>かれら</sup>の傍に立ちたり！  
11 而して 彼等<sup>かれら</sup> 言へり。  
汝等<sup>なんぢら</sup> ガリラ男兒！

耶蘇の昇天(使徒行傳)



何故に、汝等天を眺めて、立てるや。  
 汝等より天にへと引上げられし此イエスは、  
 天にへと進める彼を、汝等が視し如く、  
 正に斯く、同じ様子にて、來らん。

### 第九章 結論

#### 一 ヨハネの結論 (ヨハネ二〇の三〇—三三)

20 まことや 此書に記され有らざる他の多數の證徴を、

21 イス尚弟子等の前にて、爲せり。

ただ 此等の事の記されたるは、汝等をして、

イスの神の子メシヤなることを信せしめんとてなり。

而して 汝等をして、信じて、

彼の名に於て、生命を有たしめんとてなり。



21 此者は 此等の事に就いて、證明し、

又 此等の事を記しし所の弟子なり。而も我等彼の證明の眞實なることを知る。

25 さて、尙ほ他に、イエスの爲しし多数の事ありて、

もし 一一 之を記さば、我 思ふに、

世界其物すら、千その備記されたる書籍を容れ得ざる程ならん。

一 エハネの結論 (一ヨハネ二四—二五)

第二章 証 篇

此は三四世紀の追記な  
以後の殆ど聖  
らんの始らる  
るに加へる疑  
る程なり。

第十章 復活と昇天 附 録

一 復活と昇天 (マルコ二六)

16 さて 一週の初日、朝 早く、復活して、最初に、イ

ス) 曾て全七の鬼を投出しし所のミグダエル人マリヤに現れぬ。かの女に進みて、「イス」に伴ひし者にて、悲み、かつ泣き居る彼等に告げぬ。かくてかの者等(イス)の活きて、彼女に依りて、眺められし事を聞けるも、信せざりき。

19 さて 此等の事の後、彼等の中の二人、歩みて、田舎にへと進めるに、(イス)別の姿に於て、現れぬ。かくて

復活と昇天(マルコ)



かの者等<sup>13</sup> 往きて、餘の者に告げしかど、(餘の者は) かの者等を信せざりき。<sup>14</sup> 其後、彼等<sup>15</sup> 自ら食に就ける十一人の者に(イス) 現れ、而して死人の中より復活したる彼を眺めし者を信せざりしとて、彼等の不信仰と頑固心を咎めて、<sup>16</sup> 彼等に言へり。汝等<sup>17</sup> 全世界にへと進みて、有ゆる被造物に、福音を説教せよ。信じて、洗せられし彼は救はれん。されど、信せざりし彼は罰せられん。<sup>18</sup> さて、此等の證徴、信じたる彼等に伴はん。彼等<sup>19</sup> わが名に於て、鬼を投出さん。

福音の  
書に  
記す  
所の  
事  
は  
此  
の  
如  
し  
也

彼等<sup>13</sup> [諸]の言語を語らん。

彼等<sup>14</sup> その手に於て、蛇を捕へん。

彼等<sup>15</sup> たどひ 何をか、死毒を飲むとも。

それ 決して、彼等<sup>16</sup> を害せざらん。

彼等<sup>17</sup> 病人に按手せん。

さらば 彼等<sup>18</sup> 癒えん。

故に<sup>19</sup> 彼等<sup>20</sup> は語りし後、天にへと引上げられて、神の右に坐せり。されど、主<sup>21</sup> 協力し、その伴へる證徴を通じて、言を確立し、かの者等<sup>22</sup> 出往きて、四方に説教せり。



















ニ マタイの傳へし福音書

索引 (マタイ)

<p>二 章</p> <p>九六三九六一</p> <p>三二八五二八五</p> <p>四四四四四四四 七六五四三二一</p>	<p>一 章</p> <p>一八四一七三一</p> <p>五五四〇七三〇六二 下上</p> <p>三一一一三三二二二 三八七六一〇九八七</p>	<p>節</p> <p>頁</p>
<p>六 章</p> <p>六三 八六四二</p> <p>七五二一〇九七五三一</p> <p>六六六六五五五五五 四三一〇七六五四二一</p>	<p>三 章</p> <p>八六四二</p> <p>七五二一〇九七五三一</p> <p>六六六六五五五五五 四三一〇七六五四二一</p>	<p>節</p> <p>頁</p>
<p>三〇八 五三 四 八 五三一</p> <p>五四二九七六四二一〇九七六四二</p> <p>三二八八二八八二七七七六六六六 〇九八七六六五五二一〇九八七六</p>	<p>四 章</p> <p>三〇八 五三 四 八 五三一</p> <p>五四二九七六四二一〇九七六四二</p> <p>三二八八二八八二七七七六六六六 〇九八七六六五五二一〇九八七六</p>	<p>節</p> <p>頁</p>

九

索引 (マルコ)

<p>一五 四四二 四四三 四四四 四四七 四六三</p> <p>〇〇〇 四四四 七五三</p>	<p>一六 章</p> <p>一八四九 四二</p> <p>〇七三八七六五三一</p> <p>〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇九五五五五五五 一〇九八五三二一〇</p>	<p>章</p> <p>節</p> <p>頁</p>
<p>一五 四四二 四四三 四四四 四四七 四六三</p> <p>〇〇〇 四四四 七五三</p>	<p>一六 章</p> <p>一八四九 四二</p> <p>〇七三八七六五三一</p> <p>〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇九五五五五五五 一〇九八五三二一〇</p>	<p>章</p> <p>節</p> <p>頁</p>
<p>一五 四四二 四四三 四四四 四四七 四六三</p> <p>〇〇〇 四四四 七五三</p>	<p>一六 章</p> <p>一八四九 四二</p> <p>〇七三八七六五三一</p> <p>〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇九五五五五五五 一〇九八五三二一〇</p>	<p>章</p> <p>節</p> <p>頁</p>

八











三	一八	章
四	三	節
一五	三	頁
三	一九	章
四	四	節
一五	九	頁
三	二〇	章
四	五	節
一五	八	頁

三	一五	章
四	一	節
一五	三	頁
三	一六	章
四	二	節
一五	八	頁
三	一七	章
四	三	節
一五	四	頁











































一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十	五十一	五十二	五十三	五十四	五十五	五十六	五十七	五十八	五十九	六十	六十一	六十二	六十三	六十四	六十五	六十六	六十七	六十八	六十九	七十	七十一	七十二	七十三	七十四	七十五	七十六	七十七	七十八	七十九	八十	八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七	八十八	八十九	九十	九十一	九十二	九十三	九十四	九十五	九十六	九十七	九十八	九十九	百
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---

索引

をばり

左近義  
義弼譯編 詩

篇

(定價壹圓五拾錢)

- 第一編 讚美
- 第二編 追想
- 第三編 感謝
- 第四編 禮拜
- 第五編 經歷
- 第六編 呪詛
- 第七編 改悔
- 第八編 祈願
- 第九編 皇運
- 第十編 神政

右の如く、十編十八章百五十八項に類別して、言律を正し、原著者の原詩を譯出するに務めたるもの、一讀再吟、預言者と共に泣き、預言者と共に謠ひ、坐にイエルサレムの盛衰を回顧し、轉た感慨の念に堪へざらしむ。詩篇はユダヤ民族の宗教史・ヤーエ選民の信仰録なり。故に耶蘇信者の一日も缺く可らざる聖書中の聖書なり。



左近譯編創世記

(特價七拾中錢)

第一編 人類史

第一章 人生及び罪惡の起原

第二章 文明の起原及び人類の墮落

第三章 人類墮落の結果及び天罰の洪水

第四章 諸國民の起原

第二編 ヒブリ民族の傳說的祖先

第一章 アブラハム物語

第二章 ヤコブ物語

第三章 ヨセフ物語

右の如く、二編七章五十九項に類別し、ユダヤ系・エフラئم系申命

系・祭司系の四大歴史系を摘採列記し、ヒブリ文學の對句法及び韻律を正したる幽玄・高妙なる詩歌の中に、宗教哲學・文學・科學・天文・地理・歴史・倫理・法律等を教ふる世界の開闢史にして、同時に未來の默示録なり。本書も詩篇と共に、譯編者が原書の一字一句を苟もせずして譯出編成したるものなり。



發行所 東京 青山南町五丁目三十七番地 聖書改譯社

振替貯金口座參參六壹

大正二年三月二十八日發行  
大正三年三月二十五日印刷

奥附



新約 耶蘇傳  
聖書

奧附

大正三年三月二十五日印刷  
大正三年三月二十八日發行  
定價 革製貳圓貳拾錢  
布製壹圓八拾錢

不許  
複製

譯編者 東京青山長者丸  
發行所 左近義弼

印刷者 岡千代彦  
東京市芝區新樓田町十九番地

印刷所 自一由活版所  
東京市芝區新樓田町十九番地

發行所 東京 青山南町五丁目三十七番地  
振替貯金口座參參六壹 聖書改譯





325
275



Yoffacon



終